※令和４年度以降入学生用

学校番号	216

令和８年度　地歴公民科

教科	地理歴史	科目	日本史演習	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等	詳説日本史（山川出版）　図説日本史通覧（帝国書院）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・国際社会との関わりとともに日本の歴史を中世から近世にかけて絞って学習します。
・エピソードや地域の遺跡・文化財等を紹介しながら、図表・ビデオ・図書館資料等を活用し、生徒の発見を重視します。
・学習を深めるためにノートを準備してください。

２　学習の到達目標

第３学年で学習する日本史の補足として、世界史の学習と関連させながら、国際社会との関係性や東アジアの中での日本の発展を概観し生徒の歴史観を育成する。
(1) 自国の歴史の展開に関わる諸事情について、世界史的な観点と地理的条件を関連付けながら総合的に捉える力を付ける。
(2) 自国の伝統文化を時代や地域などの要素を多角的、多面的に考察する力を付ける。
自国の歴史を通じて未来へのより良い社会を実現できる力を付ける。
(3) (1) (2) の力を元に情報や知識を的確に入手し整理し、それに基づいて考察や議論を行い、さらに考えを発展させる力を付ける。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・我が国の歴史の展開に関わる諸事情について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解している。 ・諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。	・我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、現代とのつながりなどに着目して多角的に考察し、解決を視野に入れて構想することができ、それの基づき発表や議論をおこなうことができる。	・我が国の歴史の展開に関わる事象について、見通しを持って学習に取り組む姿勢がある。 ・より良い社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返り、次の学習へのつながりを見つけ出そうとする姿勢が見られる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	近世の幕開け	戦国大名の登場 織豊政権 桃山文化 幕藩体制の成立 幕藩社会の構造 幕府の安定	a:応仁の乱後の守護大名と戦国大名の相違点理解し、その後の国際社会との交流を経て織田政権、豊臣政権、江戸幕府への天下統一への流れと、幕府の仕組みを理解する。 b:戦乱の世から平和で戦のない世への転換がどのようにおこなわれ、織豊政権と江戸幕府との相違点を、自分の言葉で表現できる c:戦乱から平和への道のりを主体的に考察している。	授業ノート 定期テスト	授業ノート 定期テスト	振り返りシート ワークシート
2	幕藩体制の成立と展開	幕府の安定 経済の発展 元禄文化 幕政の改革	a:産業の発展や、交通流通の発展が江戸時代の安定に大きく寄与していることと、経済の発展が江戸幕府の財政に大きな負担となって行くこと、さらにそのことに対して幕府がどのように対処したかを理解している。 b:経済発展が武士社会の混乱にどのように寄与したのか、幕府の諸改革がどのように効果があったかのかを考察し自分の言葉で表現できる。 c:幕府の改革を主体的に考察している。	授業ノート 定期テスト	授業ノート 定期テスト	振り返りシート ワークシート

※令和４年度以降入学生用

3	幕藩体制の動揺	幕府の衰退と近代への道 化政文化	a:経済活動の発展が幕府の政治的な安定を揺るがしてゆく過程を理解し、文化の中心が武士や特権階級から庶民にうつってゆくことも理解する。 b:幕藩体制の動揺が内的や要因と海外からの外的な要因との双方向から影響を受けていたことを関連付けて考察できる。 c:幕府衰退の過程を主体的に考察している。	授業ノート 定期テスト	授業ノート 定期テスト	振り返りシート ワークシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度